

大学の 仲間たち



和名 モンキアゲハ
学名 *Papilio helenus*
英名 *Black & White Helen*
目 チョウ目
科 アゲハチョウ科
開張 110~130mm

モンキアゲハ

大型のチョウはアゲハチョウの仲間であり、白、あるいは黄地に黒い縞模様がはいった仲間と全体的に黒っぽいチョウがいる。

前者はアゲハチョウとキアゲハであり、すでに紹介した。一方、後者は本学構内から三週知られ、そのうちジャコウアゲハは紹介済みである。

今回のモンキアゲハは黒色が強く、かつ翅を広げた幅が十一から十三センチメートルくらいと一番大型であり、しかも後翅に大きな黄白色の斑が顕著であり、飛翔中でも簡単に他種とは区別できる。

構内では、五月中旬から六月中旬、七月末から八月末、九月中旬から末にかけて力強く、高速で飛んでいるのが見られるので、この地方ではおそらく年三回、チョウになるのである。しかし幼虫はカラスザンショウやミカン類を食べ、これらの樹木が構内にないので、本学内では繁殖していないと思われる。冬はサナギで過ごすようである。

(自然環境教育センター長 前田喜四雄)

■ 編集後記 ■

今年の春は寒さが続き、三月に雪が降る日もありました。このため、例年よりも杉の花粉量が少なく、くしゃみをする人が少ないようです。

二〇〇四年春号も、読みごたえのある記事で構成できたと喜んでおります。巻頭特集対談では、柳澤学長と後援会長の花岡昭憲先生にお話しただきました。長年の教育経験を踏まえての今後の教員養成のあり方を熟く語りられました。学生の自立の精神の喚起、企画力・実践力・組織力の育成等、今後の大学の人材育成での使命が挙げられたと思います。

この四月からの法人化と同時に改組された大学院がスタートします。昭和五十八年四月に設置されて以来、ちょうど二十年が経過した時点で、学校の現代的課題にこたえる教員の高度な養成機関として、大学院が再編されます。今後の三つの専攻、それぞれの積極的な教育研究の取り組みが期待され、今回大学院改組の記事でこの前途を解説いただきました。

平成十六年二月五日の新聞記事で、本学敷地内の古備塚古墳から発掘された三累環頭大刀が一斉に報道されました。今回、古備塚古墳発掘調査の記事で、発掘のきっかけから二年間をかけた調査の経過を克明に記述いただきました。発掘調査という作業の性格がよく伝えられております。

以上の内容豊富な紙面の作成のため、対談に応じていただきました花岡昭憲先生、また今回の広報誌への原稿依頼を快く引き受けていただきました先生方、更にはOBの皆さんにお礼申し上げます。今後とも、広報誌が「大学の顔」の役目を果たすよう、充実した紙面作りに尽力いたす所存です。よろしく、皆様の御支援と御協力をあおぎまして、編集後記のあいさついたします。(山邊副学長)

●ならやまWeb版

<http://www.nara-edu.ac.jp/PUBLIC/NARAYAMA/index.htm>



奈良教育大学 広報誌

第18号 平成16年5月1日 編集/広報室 発行/奈良教育大学
〒630-8528 奈良市高畑町 TEL0742-27-9296 FAX0742-27-9141
<http://www.nara-edu.ac.jp/home-jp.htm>